

## 令和4年度（2022年度）事業報告

東京湾水先区水先人会

### I. 重点目標について

#### 1. 水先人会を取り巻く一般情勢

令和4年度（2022年度）の事業報告の策定に当たり、東京湾水先区水先人会（以下、「当会」という。）を取り巻く一般情勢は、次の通りであった。

##### (1) 新型コロナウイルスについて

2023年3月時点における新型コロナウイルスの累計感染者数は、世界で約6億7700万人であり、一方、日本国内は、約3356万人（NHKまとめ）となっている。国内にあって感染力が強いといわれる変異ウイルス株が持ち込まれ、今年度は感染が拡大して第8波まで続いた。

しかし現在は国内においてワクチン接種が進み、感染数の減少が続き沈静化の兆しが見えてきた。さらに5月8日には感染法上のコロナの分類が5類に移行され季節性インフルエンザと同じ扱いとなった。

当会では関係当局や検疫所等と緊密な連絡を取り、感染防止に努めた結果、水先作業による感染者は一人も発生せず水先サービスの維持及び適正な水先業務の遂行を維持できた。

##### (2) 台風来襲及び異常気象について

2022年度の台風発生数は、25個であった。日本への上陸数は、年平均値と同じ3個であり、そのうち東京湾地区に上陸したのは1個であった。当会は従来から東京湾内における台風襲来時の走錨防止を含む海難事故防止について注力しており、2021年7月から施行された海上交通安全法の『湾外等の安全な海域への避難、錨泊制限等に係る勧告・命令制度』の遵守並びに海上保安庁、海事・港湾関係者、行政機関で構成する「協議会」に参画して台風等接近時の船舶の円滑な避難に備えている。

一方、温暖化の影響によるものと思われる気象の激甚化が顕著で水先業務の事故防止に一層の配慮が求められている。

### (3) 会員数の状況について

2022年度年初の会員数は、総数153名（一級111名、二級32名、三級10名、・・・陸上勤務者8名、新入水先人7名を除いた実稼働者は、138名）であり、新制度による水先人はほぼ9割を占めるまでに至っている。この構成員の変化は、出身母体の多様化も相まって、まさに世代交代が確実に進んでいる状況にある。また、2022年度は、退会者が8名であったが、今後予想される毎年7名前後の退会者に対し、円滑な水先業務の遂行に支障をきたさないよう、本会を取り巻く情勢を踏まえた上で、計画的な採用について慎重に対応していく必要がある。

### (4) 水先業務量の現況について

2015年8月の規制緩和により横浜区の強制水先の下限が1万G/Tに引き上げられた。2017年度までの作業量は年間約5万作業隻数以上あったが、2018年度以降、特に2020年度は、新型コロナ禍の中、水先作業隻数は4.2万作業隻数となり、前年比で8.5%と大幅に減少した。水先料実績は、水先作業隻数の減少を上回る9.6%の減少であった。

その後2021年度/2022年度の水先作業隻数は、約4.2万作業隻数で概ね横這いとなり、水先料実績は、前年比夫々1.46%/0.61%の減少であった。引き続き、新年度の実績に注目して行きたい。

### (5) 船舶の大型化について

横浜区では、HD4に大型コンテナ船（12.8万G/T級、LOA 347m、1.1万TEU積）が定期寄港し、また、南本牧MC1~4は、14.2万G/T級（LOA 360m級、1.3~1.4万TEU積）の大型コンテナ船の寄港が常態化している。東京区においても、14.1万G/T級（LOA 368m 1.3万TEU積）の大型コンテナ船が定期的に寄港している。いずれの港区でも大型化する船型を既存のバースに受入れざるを得ず、水先の引受に際しては、港湾局、バース管理者及び海上保安部等の関係者と協議・検討を重ね、安全を確認しながら対応している。

このような状況の中、昨年度に引き続き技術的観点から、設備面での安全対策も関係者に強く要望しており、その結果、フェンダーの大型化や接岸速度計の導入が実施された。また、南本牧については、大型船の常時入港に備え導灯の設置を関東地方整備局並びに横浜市港湾局に強く働きかけている。今後も当会としては、大型船の受け入れに対する安全を担保するため、引受条件について慎重に検討していく。

(6) 東京湾内の港湾整備や航行管制等の状況について

新本牧ふ頭建設工事が2019年に開始され、工事区域が設定されたことにより、横浜区沖の錨地の再編や横浜航路延伸が実施された。このように、横浜航路沖の余裕水域が減少したことにより、大型コンテナ船(8万トン以上)については、乗り継ぎ時の安全を担保するため、従来の入港のみの「通し作業」から入出港船をすべて「通し作業」に拡大した。川崎区では京浜運河での橋梁工事が実施されている。管轄官庁を含む関係者による安全対策協議会等が開催されているが、水先人会としては、安全運航を確保するため、積極的に提言・要請をしている。

(7) 日本水先人会連合会（以下連合会という）の主たる活動等の関連事項

1) 水先人の人材確保・育成等に関する検討会関連

①モニタリング委員会

2015年4月に設置された「水先人の人材確保・育成等に関する検討会」は、安全かつ円滑な水先業務の確保のため各水先人会が改正した会則実効性及び中小水先区の水先人不足に対する円滑な派遣支援の確保を図るため、モニタリング委員会を設置し、この2項目について評価検証を行ってきた。更に船協・連合会業務連絡会において海難、小規模事故、不適切運航、品位の欠如等の案件を拾い上げモニタリング委員会に報告することとしていた。これらについて2022年度をもって当初の目的は達成されたためモニタリング委員会は廃止、業務連絡会は国交省、船協、連合会の3者による情報交換の場として今後も継続することとなった。

②二級及び三級水先人の募集人数について

同検討会「第四次とりまとめ」により、全国の水先区において2023年度から2025年度まで、二級水先人は毎年2人、三級水先人は毎年2人+ $\alpha$  ( $\alpha$ は3人以下の範囲内で、 $\alpha$ については、毎年、一級水先人の応募状況を確認し決定)の募集人数とすることが認められた。当会としては、2022年度は、二級1人、三級2人採用した。

2. 令和4年度(2022年度)は、当会のおかれた上記1.の一般情勢を勘案し、次に掲げる重点目標を設定し実現すべく対応策を実施した結果等は次の通りである。

(1) 水先業務の安定した供給を継続すること。

- ① 今年度も従前と同様に、ユーザーに対する水先業務の安定的な供給に支障をきたした事例はなく、安定供給を実践することができた。
- ② 水先業務の安定的な供給を確保するためには、適正な員数の水先人

が必要である。2022 年度初における会員数は前述したが、同年度末における会員数は、総数 154 名（一級 113 名、二級 29 名、三級 12 名）となった。陸上勤務者 7 名と新入水先人 9 名を除いた実稼働者は、139 名であり、2022 年度中は 1 名増であった。なお、2023 年度以降の 4 年間で凡そ 30 名近い一級水先人の退会が見込まれている。これらの状況を踏まえ、2022 年度は三級 2 名、二級 1 名、一級 4 名を募集し、水先業務の安定供給を図った。

- ③ 当会では、2021 年度から進級一級水先人が順次実職に就いているが、円滑な水先業務の遂行を確保するには、今後も適正な員数の水先人を確保していく必要があり、特に新入一級水先人の募集人数は、将来の経済状況を考慮して、慎重に検討する必要がある。

(2) 船舶の航行及び港内業務の安全を確保すること

- ① 連合会の主導による水先人の検証制度の深度化に相応して各級水先人技術レベルを高めるため、入会年次別の技術研修会（座学及び操船シミュレーター訓練）及び質疑応答形式の研修会を引き続き確実に実施し、安全運航の維持に努めた。
- ② 事故等の発生状況は、2021 年度／2022 年度比で、海難等：1 件／0 件、事故（海難を含む）：10 件／2 件、不適切運航：10 件／3 件という結果となり、2021 年度に比較し、2022 年度の海難は減少した。今後引き続き海難、事故及び不適切運航等の減少に努めたい。2022 年度は、会則に基づき海難に関わる必要な審査等を行うため事故防止対策委員会を 1 回開催した。
- ③ 船舶の大型化（特に、コンテナ船）に伴い、これらの船舶の受入れに関し、関係官庁、バース管理者等の関係者と安全運航を達成するために協議・検討を重ねたが、今後も厳しく慎重に進めていく必要がある。新たな大型船の入港に際しては航行安全委員会の中でシミュレーターによる検証を実施すると共に、会員に対して操船シミュレーター訓練を実施した。

(3) 会則実行性の強化を図ること。

- ① 水先業務の適正な実施の観点から、会員の指導・監督が効果的に果たされていることを船社や関係機関等へ実証し、不信感や懸念を払拭する必要がある。会則・規程等により、事故、不適切運航及び水先人の品位欠如等の指導・監督の対象案件については、事故防止対策委員会で審議し、更に海務委員会等でも該当事案について顛末、原因究明

や再発防止対策等を検討した。

- ② 審議・検討した事例については、適宜、会長通達で全会員へ周知し注意喚起するとともに、原因が水先人だけではない場合は具体的な改善をユーザーと共に実施した。特に不適切運航や品位の欠如については、連合会を通じて「船協・連合会業務連絡会」等に当会の取った処置を含めて報告した。
- ③ 今後も定例会、各種の技術研修及び会長通達等で会則実行性の強化による安全の確保について粘り強く啓蒙活動を継続することとし、事故防止を図ることにより安全確保を図りたい。

(4) 新入水先人等に対して充実した養成教育を実施すること。

- ① 過去、新入水先人の実務研修に係わる規程類は、実情に合わせて夫々の年度において整備・改定してきた。これら規程類に基づき、2022年度も各級の新入水先人に対する入会後の陸上研修、その後の実船研修（共同操船）と、支障はなく順調に実施することができた。
- ② 新入水先人、進級水先人及び各級水先人が受ける業務評価や進級評価については、計画的に専任指導水先人との共同操船の機会を設け、被評価対象水先人の技術的な力量を、評価シートにより厳しく評価することができた。
- ③ 当会の方針である“水先人のキャリアパスプラン”に従い、二級・三級水先人の上級職への進級とそれに求められる養成も、計画通り確実に実施した。

## II. 会則第4条に規定された各事業

### 1. 会員の品位保持に関する諸施策の実施

#### (1) 会員に対する指導、監督及び連絡の実施

- ① 水先業務に関わる情報の提供及び注意喚起、事故・不適切運航についての会員、関係者への対応、各種議事録・参考資料等の会長業務連絡等での周知を遅滞なく行った。

#### (2) 会員の継続的かつ定期的健康管理の実施

水先人にとって健康であることが就業の前提であることから、会員に対して、2022年4月～6月に自主健康診断を石川町内科クリニック等で行い、会員全員が受診した。

(3) 会員の品位保持に係る法定委員会の開催

法定委員会のうち、会員の品位保持に関わる綱紀委員会及び事故防止対策委員会を必要に応じ開催した。(添付資料 別紙-1 参照)

(4) ISO 品質管理システムの運用

- ① 2022 年 11 月に内部監査を実施し、同年 12 月に第 1 回サーベイランス審査を受審し、「不適合報告：無」及び「改善事項：0 件」の判定を受け、システムが効果的に実施・維持されていることが確認され、認証の継続が承認された。
- ② ISO 管理委員会は 2 回開催した。

(5) 連合会の実施する研修の受講

- ① 連合会の安全研修が、7 月 28～29 日に横浜（18 名）、名古屋（1 名）で実施され、合計 19 名の水先人が参加した。
- ② 連合会の主催する新人研修が開催され、5 月には一級水先人（15 期生 3 名）、10 月には二級水先人（8 期生 1 名）三級水先人（11B 期生 1 名）がそれぞれ同研修を受講した。

2. 合同事務所の設置及び運営に関する事務の実施

(1) オペレーション業務及び水先料金管理業務の実施

- ① 水先引受、配乗等のオペレーション業務については、新人職員の業務に対する習熟も深まり、水先の受付や配乗業務は概して順調に為されたといえる。
- ② 配乗に関し、部内においてダブルチェックの励行徹底、業務連絡会を実施し改善に努めた結果、配乗ミスは通期で、港内業務及び航行業務において、それぞれ 1 件に留まった。引続き上記対策と併せコミュニケーションの徹底等により水先業務の実施に支障がないよう確実な配乗を実施していきたい。

(2) 水先業務システムの改善と維持

2018 年 6 月に機器及びシステムの更改を行い、その後微小な改善を行いつつ運用してきた。2022 年度は、2023 年 6 月の更改にむけ WG による検討を重ねて大幅な更改を行いシステム改善を行う。

(3) ユーザーに係る法定委員会の開催

法定委員会のうちユーザー対応委員会及び業務運営協議会は、新型コロナ禍の影響下、委員の安全確保を最優先し開催を見合わせた。2022年度は、ユーザー対応窓口を通じたユーザーからの水先業務に関する改善要望等はなかった。

(添付資料：別紙－1 参照)

(4) 常設委員会等の定期的開催

総会、理事会、常勤役員会、総務委員会、海務委員会、業務委員会、財務委員会及びISO管理委員会を定期的に開催した。

(添付資料：別紙－1 参照)

(5) 公認会計士による監査及び情報公開

① 例年の通り、年度末における収支決算報告書の作成に際し、公認会計士の監査を受け、決算報告書等の財務諸表が適正である旨の監査報告書を取得した。

② 情報公開については、ホームページ上に会則で定められた情報の公開を行った。また、当会の情報公開基準に基づくユーザーからの情報開示請求はなかった。

(6) 個人情報保護方針に基づく個人情報管理の確実な履行

「個人情報保護規則」、「個人情報取扱規程」及び「特定個人情報取扱規程」の定めに従って、これらを適正に運用し、水先人及び職員等の個人情報の保護を確実に行った。

3. 水先人の養成・教育に関し必要な事務の実施

(1) 新入及び進級水先人に対する実務研修の実施

① 一級水先人 16 期生 5 名 (2023 年 3 月入会)、二級水先人 8 期生 1 名 (2022 年 6 月入会) 及び三級水先人 11B 期生 1 名 / 13A 期生 2 名 (2022 年 9 月入会) に対し、入会后、所定の陸上研修及び実船研修を実施した。これら 9 名の新人水先人は、それぞれの評価終了後、所定の訓練 (単独操船) に移行することとなる。

(2) 水先修業生及び進級水先修業生に対する水先実務修習の実施

① 一級水先修業生 16 期生 5 名 (2023 年 3 月入会済)、二級水先修業生 9 期生 1 名 (2023 年 6 月入会予定) 及び三級水先修業生 12B 期生 1

名/14A 期生 1 名（2023 年 9 月入会予定）に対し、水先養成制度に基づいた水先区個別教育（乗船修習を主とする水先実務修習）を実施した。（A は乗船実歴がある者、B は乗船実歴が無いものを示す。）

- ② 2022 年度の一級水先修業生及び二級水先修業生は、2022 年 12 月に水先人試験（口述）を受験し一級水先修業生 4 名が合格、1 名は不合格となったが、2023 年 2 月の追試験にて合格した。二級水先修業生 1 名は合格した。その後、一級水先修業生は、2023 年 3 月に入会した。二級水先修業生は 2023 年 6 月に入会予定であり、三級水先修業生は、2023 年 5 月に水先人試験（口述）を受験予定である。

（3）一級水先人の業務制限

一級水先人の業務制限の緩和については、最近の入港船舶（特にコンテナ船）の大型化の現状に鑑み検討され、それに伴う関連規則、規程の改正も含め海務委員会及び総務委員会を経て、2022 年 3 月開催の総会にて審議のうえ承認された。

（4）教育訓練センターによる教育訓練計画の立案及びその推進

例年の通り、教育訓練センターが教育訓練計画を策定し、これに従い新入水先人及び業務経験年数別の各級水先人に座学、操船シミュレーター訓練及び操船に関する質疑応答形式を含む技術研修会等を実施した。更に、業務評価、進級評価を適正に実施した。（添付資料 別紙-2 参照）

（5）会員に対する技術研修及び操船シミュレーター訓練の実施

上記（3）の各技術研修以外に次のような技術研修を実施した。

- ① 「二人乗り大型船(港内業務)の主水先人養成に関する規程」に従い、二人乗り大型船の港内業務に従事する主水先人の養成を行った。
- ② 「航行業務 VLCC 研修要領」に従い、航行業務 VLCC 研修を実施し、航行業務に従事する大型危険物積載船及び二人乗り LNG 船の水先人の養成を行った。
- ③ 不適切操船が発生した特定のバースについては、事故の再発防止の観点から操船要領等についての技術研修（座学/操船シミュレーター）を実施し、操船技術・技量の向上と伝承を図った。
- ④ 南本牧 MC バース、本牧 D4 バースにおける超大型コンテナ船の寄港に備え、操船シミュレーター訓練を実施した。



#### 4. 本会及び会員の業務に関して、連合会及び官公署等との連絡協議の実施

##### (1) 連合会の理事、その他の役員及び委員等の派遣

役員、理事、その他の水先人を、連合会の要請に従い、各種委員会委員として派遣した。指名されたこれらの委員は、関連委員会への出席、水先関連課題に関する協議会・検討会、その他の懇談会等に参加し、水先制度や水先人後継者の確保・育成などを含む諸課題について積極的に発言する等、精力的に活動した。

##### (2) 連合会が行う水先人の確保に関する施策への協力

① 連合会の中小規模水先区の水先人の後継者不足対策の一環として実施している派遣支援制度について、当会会員からも積極的な協力を得て、長崎水先区（滞在型）と鹿島、博多、鹿児島水先区（スポット型）に派遣した。

② 当会としては、酒田水先区（滞在型）その他に釧路、八戸、田子の浦、細島水先区（スポット型）の複数免許保有者がおり、合計 10 名の会員が中小規模水先区の派遣支援に協力していることとなる。

##### (3) 各外郭団体に対する理事、その他の役員及び委員等の派遣

当会が関係する諸外郭団体については、役員、理事、その他の水先人を当該諸団体の委員等として派遣し、各種委員会、協議会等に参加して、その運営に協力した。

##### (4) 海上保安部及びその他団体との業務連絡会、意見交換会等の開催

新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、「安全運航強調月間」期間中の各種業務連絡会、意見交換会の他、関係バース施設者等と懇談会や意見交換会の開催に代えて、書面開催を行った。

#### 5. その他（広報活動）

(1) 本会の広報活動の一環として各種メディア・団体等からの出演、取材の依頼に対応し、各級水先人の協力を得て参画、水先業務を紹介した。2022 年度は、コロナ禍の影響を受け、参加件数は 2 件であった。

(2) 会報「ANJIN」は、年 4 回の季刊発行を継続し、多方面の読者に好評を博している。

### Ⅲ. 令和4年度（2022年度）の会員の異動状況

2022年4月1日 在籍員数	会員の異動		2023年3月31日 在籍員数
	入会	退会	
153	9	8	154

（一級水先人：113名、二級水先人：29名、三級水先人：12名）

（2023年3月31日現在）

以上

（添付資料）

添付 別紙-1 「令和4年度 総会、法定委員会、常設委員会等 開催一覧表」

添付 別紙-2 「令和4年度 各級別技術研修会 実施報告・評価実施報告」

完

## 令和4年度 総会、法定委員会、常設委員会等 開催一覧表

委員会名	回数	開催日		
通常総会	2	令和4年6月3日	令和5年3月28日	
臨時総会	1	令和4年12月23日		
理事会	9	令和4年5月24日	令和4年6月3日	令和4年12月12日
		令和5年3月10日 (書面開催：4月11日、6月28日、7月27日、9月21日、10月28日)		
法定委員会（4委員会）		4		
綱紀委員会	1	令和4年7月19日		
ユーザー対応委員会	1	令和4年8月16日(書面開催)		
事故防止対策委員会	1	令和4年8月1日(書面開催)		
業務運営協議会	1	令和4年7月14日		
常設委員会（5委員会）		25		
総務委員会	7	令和4年5月18日	令和4年6月28日	令和4年11月4日
		令和4年11月28日	令和5年2月9日	令和5年3月6日
		令和5年3月30日		
業務委員会	4	令和4年5月20日	令和4年7月11日(書面開催)	令和4年11月9日
		令和5年3月7日		
海務委員会	7	令和4年5月20日	令和4年7月14日	令和4年9月14日(書面開催)
		令和4年11月7日	令和4年11月25日	令和5年2月3日
		令和5年2月20日		
財務委員会	5	令和4年5月20日	令和4年6月23日	令和4年8月31日
		令和4年12月7日	令和5年3月8日	
ISO管理委員会	2	令和4年6月30日(書面開催)	令和4年10月19日	
安全管理小委員会	0			
教育訓練会議	1	令和5年3月22日		
教育訓練センター委員会	2	令和4年7月26日	令和5年2月15日	
常勤役員会	3	令和4年7月13日	令和4年9月1日	令和5年3月22日
定例会	1	令和4年11月17日		

## 技術研修会 2022年度 実施報告

対象者	年	研修名	船型等	港	着離	パース名	Remark	2022年度対象者		
新規 1級	① 1年目	1 小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A		2022.09.22 講師 (H高橋)		
					A	TNGANE 8				
					A	MK7				
		2	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10		(2021.03 入会) 福井、中村、熊田	
		3	JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施							
	② 2年目	1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風	2022.06.16 講師 (恩田)	
						A	NS	SWの強風		
		2	バルカーの着棧 タグ3隻使用	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	KFUTO		(2021.03 入会) 堂脇、伊藤、館山、 飯沼、尾崎、秋坂	
						千葉	A	N-SILO		
		3	タンカーの着棧 タグ3隻使用	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	5JX-AE			
						千葉	A	ID-2		
	③ 3年目	1	LPGタンカー着棧 タグ3隻使用	G/T 48,000 (DWT 75,000) 級	横浜	A	TG-5N		2022.06.23 講師 (安部)	
						川崎	A	JX-GAS		
						川崎	D	JX-GAS		
						千葉	A	JX-ANE		
						千葉	D	JX-ANE		
	④ 4年目	1	大型コンテナ船の着離棧	G/T 89,900 (8,000 TEU) 級	横浜	A	HD4		2023.02.20 講師 (藤)	
						D	HD4			
		2	大型客船の着離棧 アジマス推進器装備船	G/T 90,228 級	横浜	A	SPC		(2019.03 入会) 酒井、増山、月館、 安達	
	D	SPB								
3	TANKERの離棧(強潮流)	G/T 60,000 級	千葉	D	KSB-E					
⑤ 5年目	1	大型バルカーの離棧	DWT 170,000 級	川崎	D	JFK-EA				
	2	LNG船の離棧 (さやりんご型)	G/T 124,000 (150,000 m3) 級	木更津	D	TD-F2		2022.12.09 講師 (水津)		
	3	VLCCの離棧	G/T 150,000 級	根岸	D	5JX-AW		(2018.03 入会) 小柳、久葉、上野、 今村		
	4	大型コンテナ船の着離棧	G/T 141,716 (14,000 TEU) 級	横浜	A	MC1				
D	MC1									

(新規追加)

進級1級	③ 2年目	1	LPGタンカー着棧 タグ3隻使用	G/T 48,000 (DWT 75,000)級	横浜	A	TG-5N	2022.03.03 講師 (真鍋)		
					川崎	A	JX-GAS			
					川崎	D	JX-GAS			
					千葉	A	JX-ANE			
					千葉	D	JX-ANE			
	④ 3年目	1	大型コンテナ船の着離棧	G/T 89,900 (8,000 TEU) 級	横浜	A	HD4	講師 ( ) 対象者:なし		
						D	HD4			
		2	大型客船の着離棧 アジマス推進器装備船	G/T 90,228 級	横浜	A	SPC			
					D	SPB				
	3	TANKERの離棧(強潮流)	G/T 60,000 級	千葉	D	KSB-E				
	⑤ 4年目	1	大型バルカーの離棧	DWT 170,000 級	川崎	D	JFK-EA	講師 ( ) 対象者:なし		
					2	LNG船の離棧 (さやりんご型)	G/T 124,000 (150,000 m3) 級		木更津	D
3					VLCCの離棧	G/T 150,000 級	根岸		D	5JX-AW
4					大型コンテナ船の着離棧	G/T 141,716 (14,000 TEU) 級	横浜		A	MC1
				D	MC1					

新規2級	① 1年目	1	小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A	2022.04.28 講師 (Y山本)					
						A	TNGANE 8						
						A	MK7						
	② 2年目	2	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10	(2021.06 入会) 柴田					
						JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施							
						1	強風下でのPCC着離棧	LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風	2022.06.16 講師 (恩田)
② 2年目	2	バルカーの着棧 タグ3隻使用	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	KFUTO	(2020.06 入会) 杉山						
				千葉	A	N-SILO							
進級2級	① 1年目	1	小型タンカーの用錨操船	G/T 2,998	千葉	A	COS-14A	2021.04.28 講師 (Y山本)					
						A	TNGANE 8						
						A	MK7						
	② 2年目	2	強風下でのバルカー着棧		木更津	A	KM-W10	(2018.09 入会) 鳥海					
						JXTG-1の着離棧時の注意点に関する講義の実施							
						1	強風下でのPCC着離棧		LOA 200m 級	横浜	A	NS	NEの強風
② 2年目	2	バルカーの着棧 タグ3隻使用	G/T 40,000 (DWT 70,000) 級	横浜	A	KFUTO	(2017.09 入会) 対象者 無						
				千葉	A	N-SILO							

対象者	年	研修名	実施日	2022年度対象者
新規一級	2年目	航行業務技術研修会	2023.03.10	講師（大平） 堂脇、伊藤、館山、飯沼、尾崎、秋坂

対象者	年	研修名	実施日	2022年度対象者
新規一級	2年目	技術研修会(質疑応答) 単独業務開始1年後	2022.06.29	講師（大平、冷水、J佐藤） 堂脇、伊藤、館山、飯沼、尾崎、秋坂
新規二級	2年目	技術研修会(質疑応答) 単独業務開始1年後	2022.06.29	講師（大平、冷水、J佐藤、大矢） 柴田
新規三級	2年目	技術研修会(質疑応答) 実船研修後	2022.06.29	講師（大平、冷水、J佐藤、大矢） 上窪、平永、本橋、水野
進級二級	1年目	技術研修会(質疑応答) 実船研修後	2022.08.31	講師（大平、冷水、J佐藤、大矢） 鳥海

2023/3/22

## 2022年度 評価実施報告

	2021年度対象者	実施予定日	専任指導水先人	
			航行	港内
新規一級 研修生 評価	(2022.03 入会) 福井、中村、熊田	2022.04.14	-	-
新規三級 研修生 中間評価	(2021.09 入会) 福本、北川	2022.04.14	6	6
新規三級 最終評価	(2021.09 入会) 福本、北川	2022.06.29	12	12
新規三級 業務評価(航行・港内)	(2019.09 入会) 藤沢、鈴木、野宮	2022.06.29	6	6
新規三級 水先修業生 評価	(2022.09 入会予定) 箕浦、辻村、鳥光	2022.06.29	-	-
新規二級 研修生 中間評価	(2022.06 入会予定) 池崎	2022.08.31	3	3
進級二級 業務評価(航行・港内)	(2015.09 入会) 赤塚、青木、上沼	2022.08.31	6	6
一級 進級評価(航行・港内)	(2022.09 進級予定者) 日向野、久坂、丸木、田妻、川部	2022.08.31	10	10
二級 進級評価(航行・港内)	(2018.09 入会) 鳥海 健	2022.08.31	2	2
進級一級 業務評価(航行)	進級一級 対象者なし		-	-
進級一級 業務評価(港内)	進級一級 対象者なし		-	-
一級 業務評価(港内)	(2018.03 入会) 小柳、久葉、上野、今村	2022.09.20	-	8
新規二級 研修生 最終評価	(2022.06 入会予定) 池崎	2022.10.31	6	6
新規二級 業務評価(港内)	(2018.06 入会) 池田	2022.10.31	-	2
新規二級 業務評価(航行)	新規二級 対象者なし		-	-
進級一級 水先修業生 評価	(2022年度 受験者) 室村、山下、山本、野口、古江、本田、夏井	2022.12.16(書面)	-	-
一級 業務評価(航行)	(2020.03 入会) Y宇野	2022.12.20(書面)	2	-
新規一級 水先修業生 評価	(2022.03 入会予定) 渡部、泉川、松崎、鐘ヶ江、小徳	2023.01.12(書面)	-	-
進級二級 水先修業生 評価	(2019.09 入会) 藤沢、鈴木、野宮	2023.02.23(書面)	-	-
一級 業務評価(航行)	(2021.03 入会) 堂脇、伊藤、館山、飯沼、尾崎、秋坂	2023.03.10	12	-
新規二級 水先修業生 評価	(2023.06 入会予定) 佐々木	2023.03.22(書面)	-	-
			65	61
			126	